

## アフリカ子どもの本プロジェクト 2010年度活動報告ならびに今後の活動予定

### 1、概況

2人の仲間を失うという悲しい出来事で幕開けた2010年度でしたが、図書展「アフリカを読む、知る、楽しむ 子どもの本展」が全国各地を巡回し、6月には、ケニアの2つのドリームライブラリーやプロジェクトのことなどを代表のさくまゆみこが語り、故沢田としきが絵をそえた『どうしてアフリカ？ どうして図書館？』（あかね書房）が刊行になり、活動の輪がいつそう広がりました。アフリカに本を届けたいという思いを持った方からの問い合わせもふえています。

新しい動きとしては、プロジェクト発足のきっかけとなった『エンザロ村のかまど』（福音館書店）の、英語版とスワヒリ語版の出版が進んでいます。大震災の被災地の子どもたちにも目をむけつつ、今年も当プロジェクトの目的にそった活動を着実に積んでいきたいと思っています。

### 2、会員数

2009年度末の会員数は69名でしたが、昨年度からの継続会員を含め、図書展、講演会などを通して今年度も賛同者が会員として加わり、2010年度末の会員数は82名となりました。

### 3、2010年度活動報告(2010.4-2011.3)

#### 3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

#### 3-2 ケニアの2つのドリームライブラリーへの支援、および、アフリカへの図書提供

エンザロ・ドリームライブラリー、シャンダ・ドリームライブラリーに、現地の新聞の購読料やライブラリアンへの謝礼を支援しています。また、利用状況の報告を受けながら、運営費の援助や、図書館運営への提言を行いました。

また、ザンビアの青年海外協力隊員よりコミュニティースクール巡回における読み聞かせ活動のための絵本寄贈の依頼があり、英文絵本を提供しました。

コンゴ民主共和国のポポフが運営する図書館に、スワヒリ語とフランス語の児童書を提供しました。

#### 3-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」追加本の検討

会員の作家、翻訳家、司書、研究者、編集者などで、新しく出版された児童書の検討会を持ちました。

検討の結果、2010年秋に新たに13冊を加え、2010年度末現在、おすすめの本は121点となりました。これらの本は解説を準備し、ホームページ上で書影、書誌事項とともに紹介しています。

#### 3-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

一昨年度より始まった図書展は大変好評で、2009年度の10か所に続き、2010年度は以下の9か所で開催されました。おすすめリストに加わった本を追加し、新たな情報をもとに資料パネルを作り直すなど、内容も随時バージョンアップしています。展示や講演、イベントのようすは、ホームページをご覧ください。

- ・絵本美術館 森のおうち（長野） 2010年5月21日～7月13日
- ・横浜赤レンガ倉庫 <アフリカンフェスタ>（神奈川） 2010年6月12、13日 外務省主催
- ・串間市文化会館（宮崎） 2010年8月21日～9月20日

- ・みどり市立笠懸図書館（群馬） 2010年10月1日～10月28日
- ・アートはるみ（東京）2010年10月31日～11月7日 中央区文化・国際交流振興協会主催
- ・秋穂地域交流センター（山口）2010年12月3日～5日 お話玉手箱主催
- ・高崎シティギャラリー（群馬）2011年1月29日～2月8日 時をつむぐ会主催
- ・延岡市まちづくり協同センター（宮崎）2011年2月11日～13日 ととろ三人の会主催
- ・可児市文化創造センター・可児市図書館（岐阜）2011年3月20日～24日 子育てフェスタ実行委員会主催

※次の出版社様から本年度追加の展示用図書をご寄贈いただきました。お礼申し上げます（50音順・敬称略）。  
イースト・プレス、偕成社、集英社、主婦の友社、小学館、すずき出版、そうえん社、徳間書店、PHP研究所、BL出版、ポプラ社

### 3-5 支援グッズの製作・販売

活動資金にあてるため、前年度製作した会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセットに加え、オリジナルTシャツ（沢田としき絵・白黒それぞれS・M・Lサイズ）を展覧会場やホームページで販売しました。また、ブルキナファソの民芸品を購入し、展覧会にて販売しました。

### 3-6 ホームページの更新

「おすすめリスト」、展覧会の情報や報告など、ホームページを随時更新しました。

### 3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに発信しました。

## 4、2011年度の活動予定

### 4-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行います。

### 4-2 ケニアの2つのドリームライブラリーへの支援、および、アフリカへの図書提供

引きつづき寄贈本や寄付を集め、蔵書の充実をはかるとともに、図書館が人々に活用され地元に基づいていくよう、図書館の利用状況の報告を受けながら、運営費の援助や、図書館運営への提言を行っていきます。特にシャンダ・ドリームライブラリー近辺に住む方たちの理解を得るために、「図書館がもつ意味」をわかりやすく図入りで説明したチラシ（英語・スワヒリ語併記）を作成します。

また、アフリカを拠点に活動しているいろいろな団体との協力の可能性を、引きつづきさぐっていきます。

### 4-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」追加本の検討

引きつづき、新しく出版されたアフリカに関する児童書の検討会を定期的に持ち、リストの充実につとめていきます。

### 4-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

現在の予定は次の2か所です。引きつづき、貸し出し団体を募集しています。

- ・クリエイティブ・スペース 赤れんが（山口）8月4日（木）～7日（日）“ぶどうの木” 山口市子ども読書ネットワーク主催
- ・静岡市立中央図書館 10月14日（金）～28日（金）「静岡子どもの本を読む会」と共催

なお、昨年度までは、「おすすめリスト」に選定した本はすべて「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」で展示してきましたが、冊数が増えてきたため、全体で120点を超えないよう、今後随時本を入れ替えることを検討しています。

#### 4-5 支援グッズの製作・販売

絵ハガキセット、オリジナルTシャツ、アフリカの民芸品などを販売し、活動資金としていきます。

#### 4-6 ホームページの更新

随時更新して、プロジェクトの活動を伝えていきます。

#### 4-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

引きつづき電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに発信します。

#### 4-8 『エンザロ村のかまど』スワヒリ語版、英語版の作成・出版

アフリカ子どもの本プロジェクト誕生のきっかけともなった『エンザロ村のかまど』（福音館書店）のスワヒリ語版、英語版を各 500 部作成します。出版元は「アフリカ子どもの本プロジェクト」。英語版もスワヒリ語版もそれぞれ専門の方々のご協力を得て翻訳し、福音館書店編集部が入稿・レイアウトを担当してくれました。印刷・製本の費用は児童文学作家の斎藤惇夫さん（2011年4月より当プロジェクト会員）がにない、福音館書店社員をはじめ、アフリカ子どもの本プロジェクト会員などに寄付・カンパを呼びかけました。出来上がった外国語版は、主にアフリカの子どもたちに届けます。

#### 4-9 日本の子どもたちへの広報活動

「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」のほかにも、機会をとらえて、引きつづき日本の子どもたちにアフリカのことを知ってもらおう活動を続けていきます。

#### 4-10 アフリカで出版されている本の収集

今年度は新たに、アフリカ各国で出版されている児童書等の収集に力を入れていきます。アフリカの出版事情を知るとともに、アフリカ発の本を紹介していきたいと考えています。

### 5、会計報告（2010.4.1～2011.3.31）

（省略）

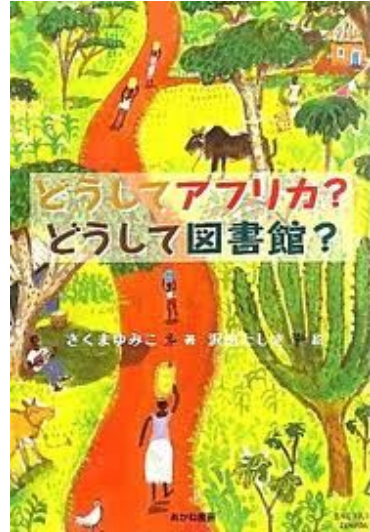
### 6、メディア等での紹介

- ・2010年4月1日 「ことばの宇宙」 第42号・通巻399号（ラボ言語教育事業グループ）  
「アフリカを知ろう！」と題して、2010年3月20日～22日大崎ゲートシティで開催された「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」のもようがカラーで紹介されました。
- ・2010年6月 さくまゆみこ著、沢田としき絵『どうしてアフリカ？ どうして図書館』（あかね書房）刊行
- ・2010年7月1日 「信濃毎日新聞」 タウン情報 森のおうちの図書館のこと。
- ・2010年7月5日 「信濃毎日新聞」 森のおうちの図書館でのイベントのこと・
- ・2010年9月15日 「読書推進運動」514号（読書推進運動協議会）p.6-7  
海外各国における読書素品活動の現状①（アフリカ）  
多言語・語りの文化を尊重して—アフリカの読書事情と支援活動—（さくまゆみこ）
- ・2011年3月刊 『多文化に出会うブックガイド』（読書工房）  
翻訳家 文化の架け橋として（さくまゆみこ）p.40-41  
アフリカ子どもの本プロジェクト活動紹介（宇野和美）p.201-203

安曇野市穂高有明の絵本美術館「森のおうち」は13日まで、絵本作家の故沢田としきさんの原画展を開いている。原画展を楽しみにしていたが、4月に51歳で急逝。「アフリカの鼓動原画展」と題し、「アフリカの音」（講談社）の19点と、翻訳家のさくまゆみこさん（62）の文に合わせて描いた「エンザロ村のかまど」（福音館書店）の23点を展示している。（長田久美子）

# 鼓動が聞こえる

穂高有明の森のおうちの故沢田としきさん原画展



（あかね書房）



「アフリカを愛した沢田さんの絵を味わって」と話す酒井館長

「アフリカの音」は96年の日本絵本賞受賞作で、太鼓をたたき、輪になって踊る西アフリカの人たちの様子を力強い色で表現。広い地平線とともに描かれた大地の色はオレンジ色やラクダ色で、黄色く鮮やかな日の光や青い空とともに来場者の目を引いている。

「エンザロ村」は、岩手県の遠野で生まれた日本人女性が、幼いころ家にあったかまどを思い出し、ケニアの村で作り方を教えるノンフィクション作品。沢田さんが実際に現地を見て描いたリアリティーのある絵が並ぶ。

同館の酒井倫子館長が「かねてからアフリカの広大な大地を描いた絵や明るい人間性に魅力を感じ、関係する絵本原画展を開きたいと願っていた」と計画。4日午後1時半から、松本市のちいさいおうち書店の主催で、さくまさんの講演会を開く。予約が必要で2000円（入館料込み、お茶付き）。

このほか、「アフリカを読む、知る、楽しむ、子どもの本」のコーナーも設け、内戦やエイズ問題を含め、最近のアフリカ事情が分かる写真やパネル、本を展示している。

午前9時半～午後5時（閉館時間変更日あり）木曜休館。大人700円、小学生500円、3歳以上250円。森のおうち88・5670